

それって本当？ 生成AI時代と対話型論証

生成AIのある未来の教育を考える

11月3日 金・祝

参加費 無料

13:30～15:30 (120分)

📺 ウェビナー形式にて開催 📺

参加条件

Zoomウェビナーで視聴できる
ICT環境をお持ちの方

対象

教育関係者(小学校・中学校・高等学校・大学の教職員、教育委員会、文科省)、大学生、大学院生など



松下 佳代 先生



定員 200名様(先着順)

第1部 /13:35～14:15

基調講演

生成AIの時代になぜ 対話型論証なのか

講師

京都大学大学院教育学研究科教授

松下 佳代 先生

第2部 14:20～15:30



それって本当？生成AI時代と対話型論証 ～生成AIのある未来の教育を考える～

1 研究報告

「生成AIとの付き合い方～生成AIの生成から利活用まで～」久富 望 先生 14:20～14:40
「小学校現場でも高まる対話型論証への期待
～生成AIの時代だからこそ～」石堂 裕 先生 14:40～14:50

2 パネルトーク「それって本当？生成AI時代と対話型論証～生成AIのある未来の教育を考える～」

パネリスト 松下 佳代 先生 / 久富 望 先生 パネルコーディネーター 石堂 裕 先生 14:50～15:30

講師・パネリスト紹介



京都大学大学院教育学研究科教授
京都大学博士(教育学)

松下 佳代
(まつした かよ)

アクティブラーニングと深い学習をかけあわせた「ディープ・アクティブラーニング」の提唱者であり、その考えは、「主体的・対話的で深い学び」にも影響を与えた。また、リテラシー、コンピテンシーといった「新しい能力」が教育を変えていることに早くから着目し、能力論、学習論、評価論をつないだ理論と実践を展開している。初等中等教育と高等教育の両方を視野に入れて研究を進めている数少ない研究者の一人である。現在、日本カリキュラム学会代表理事、大学教育学会会長、日本学術会議連携会員、中央教育審議会大学分科会委員などを務める。専門は、教育方法学、大学

教育学。とくに能力、学習、評価をテーマに、大学と中学校・高校をフィールドにして研究と実践支援を行っている。

主な著書・編著

『パフォーマンス評価』(日本標準、2007年)、『〈新しい能力〉は教育を変えるか』(ミネルヴァ書房、2010年)、『高校・大学からの仕事へのトランジション-変容する能力・アイデンティティと教育-』(ナカニシヤ出版、2014年)、『ディープ・アクティブラーニング-大学授業を深化させるために-』(勁草書房、2015年)、『アクティブラーニングの評価』(東信堂、2016年)、『対話型論証による学びのデザイン-学校で身につけてほしいたった一つのこと-』(勁草書房、2021年)他多数



勁草書房2022年11月
紙版1,980円(税込み)



京都大学大学院教育学研究科助教(情報担当)

久富 望(くとみのぞむ)

京都大学大学院理学研究科数学・数理解析専攻修了後、高校および学習塾での勤務の他、教材制作・開発など教育関連の仕事に20年以上携わる。2012年、日本デジタル教科書学会設立に発起人・理事として尽力(現在は事務局長)。その後、京都大学大学院情報学博士後期課程を単位取得退学し、就職。教育現場・教育学・情報学の交差する領域を研究し、日本学術会議情報学委員会・心理学・教育学委員会合同の教育データ利活用分科会にオブザーバーとして参加する他、秋田県内の高校において「デジタル探究」のカリキュラム開発などを行っている。



兵庫県たつの市立龍野小学校教頭

石堂 裕(いしどう ひろし)

「主体的・対話的で深い学び」を生み出す授業づくりや「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」を目指したカリキュラム・マネジメントなどの教育実践が有名。第28回全国生活科総合的な学習研究協議会兵庫大会研究部長やNHK for School番組編集委員などを務める。文部科学大臣優秀教職員表彰・兵庫県優秀教員・内閣総理大臣賞・文部科学大臣奨励賞など、教育実践における表彰多数。

お申し込み締め切り

10月31日 火

下記特設URLか右記二次元コードにてお申し込みください。

https://asagaku.com/kyoiku_doui.html



お問い合わせメール

hanbai@asagaku.co.jp (担当:朝日学生新聞社大阪教育チーム 高橋宏輔)

主催 朝日新聞大阪本社・京都新聞・朝日学生新聞社